

特別企画：旅行業者の倒産動向と経営実態調査

てるみくらぶ倒産で、負債総額大幅増加

～ 倒産件数は 29 件で 3 年ぶり増加 ～

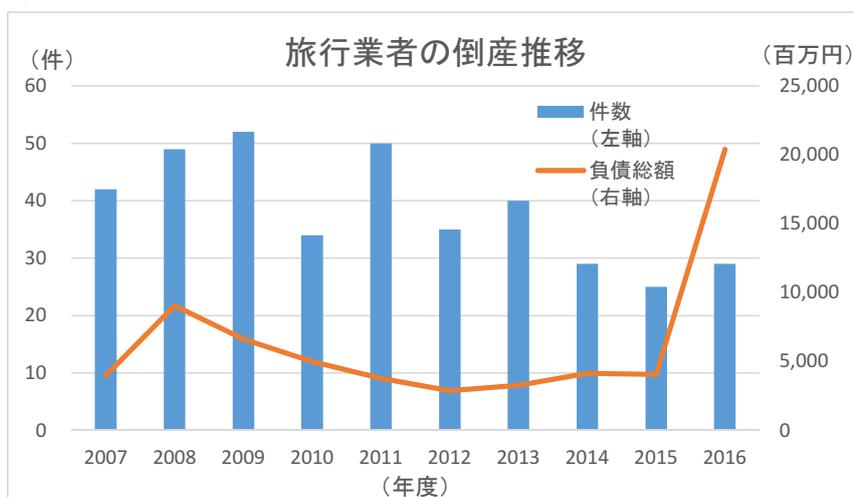
はじめに

海外旅行の企画販売など手がけていた（株）てるみくらぶ（東京都渋谷区）が、3月27日に東京地裁へ自己破産を申請。旅行者が出発を断念せざるを得ない事態に陥ったほか、旅行代金が返還されないトラブルが発生するなど、多くの一般消費者が被害を受けた。

こうしたなか、帝国データバンクでは、年度別で旅行業者の倒産推移を集計。また、2017年3月末時点の企業概要データベース「COSMOS 2」（147万社収録）の中から業績比較が可能な旅行業者 6021社を抽出し、収入高総額の推移などについて分析した。

調査結果（要旨）

- 2016年度の倒産件数は前年度比 16.0%増の 29 件で、3年ぶりに前年度を上回った
- 過去 10年の倒産件数を見ると、リーマン・ショック後の 2009年度（52件）、東日本大震災の影響があった 2011年度（50件）、円安により海外旅行者数が減少したほか尖閣諸島問題が過熱した 2013年度（40件）に多く発生した
- 負債 10億円以上の倒産が、2013年度にはゼロであったが、2014年度は 1件、2015年度は 2件、2016年度は 2件発生した
- 業績比較可能な 6021社の収入高総額は、2年連続で増加していたが、2016年に 3兆 7377億円となり、前年比 2.0%の減少に転じた



1. 件数・負債推移 ～ 倒産件数は3年ぶりの増加 ～

2016年度の倒産件数は29件となった。2013年度の40件以降、2年連続で前年度を下回っていたが、3年ぶりに増加に転じた。また、過去10年の倒産件数を見ると、リーマン・ショック後の2009年度（52件）、東日本大震災の影響があった2011年度（50件）、円安により海外旅行者数が減少したほか尖閣諸島問題が過熱した2013年度（40件）に多く発生した。

負債総額をみると、2016年度は（株）てるみくらぶ（2017年3月破産、負債約151億1300万円）、同社関係会社の（株）自由自在（2017年3月破産、負債約34億6400万円）が倒産したことで、比較可能な2000年以降で最大の203億9300万円（前年度比403.0%増）となった。

年度	件数	前年度比 (%)	負債総額 (百万円)	前年度比 (%)
2007	42	31.3	3,983	97.7
2008	49	16.7	9,045	127.1
2009	52	6.1	6,622	▲ 26.8
2010	34	▲ 34.6	4,998	▲ 24.5
2011	50	47.1	3,774	▲ 24.5
2012	35	▲ 30.0	2,892	▲ 23.4
2013	40	14.3	3,282	13.5
2014	29	▲ 27.5	4,155	26.6
2015	25	▲ 13.8	4,054	▲ 2.4
2016	29	16.0	20,393	403.0

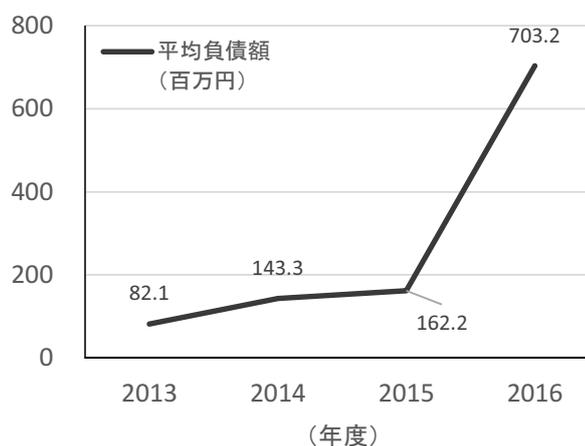
2. 負債規模別 ～ 近時は大型倒産が散発 ～

負債規模別でみると、2016年度の倒産は、（株）てるみくらぶ関連2社を除き、他はすべて負債額5億円未満であった。集客用のシステム導入以外には特段大きな設備投資が必要でないという業種柄、大型倒産は発生しづらい傾向がある。

しかし近年は、若干ながら負債規模の大型化が進んでいる。負債10億円以上の倒産は、2013年度にはゼロであったが、2014年度は1件、2015年度は2件、2016年度は2件発生した。

これに伴い、倒産企業における1社あたりの平均負債額は増加傾向で推移。2013年度は1社平均約8210万円だったが、以降は3年連続で前年度を上回っている。

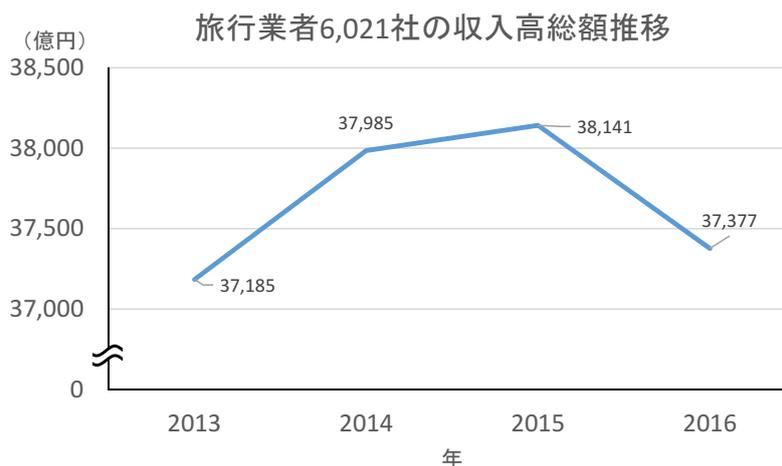
(百万円) 1社あたりの平均負債額推移



負債規模別	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1000万-5000万円未満	19	17	15	13
5000万-1億円未満	13	3	5	10
1億-5億円未満	8	8	3	4
5億-10億円未満	0	0	0	0
10億-50億円未満	0	1	2	1
100億円以上	0	0	0	1
合計	40	29	25	29

3. 収入高総額の推移 ～ 2016年の収入高総額は減少に転じる ～

業績比較可能な6021社における、2016年決算（2016年1月期～2016年12月期）の収入高総額は3兆7377億円であった。2014年決算（収入高総額3兆7985億円）から2年連続で増加していたが、2016年は前年比で2.0%減少した。



4. まとめ

国内旅行だけでなく、海外旅行が一般化するなど事業の裾野が広がってきた旅行業界。各社は、価格競争のほか、体験型の旅行企画など独自性の高い商品を提供することで、差別化を図っている。また、近年はインターネットでの集客を進めることで、経営の効率化を実現してきた。こうしたなか、倒産件数は2013年度が40件（前年度比14.3%増）、2014年度は29件（同27.5%減）、2015年度は25件（同13.8%減）と推移し、2年連続で減少した。しかし、2016年度は29件で、3年ぶりに前年度を上回る水準となった。

一方、2013年から2016年までの4期決算において業績比較可能な6021社の収入高総額の推移をみると、2013年が3兆7185億円、2014年は3兆7985億円（前年比2.2%増）、2015年は3兆8141億円（同0.4%増）と2年連続で増加していたが、2016年（3兆7377億円、同2.0%減）は減少に転じていた。

倒産が増加した時期と、収入高総額が悪化したタイミングが重なっている数値変化をみると、事業環境の変化によっては、引き続き倒産件数が増加基調で推移する可能性がある。(株)てるみくらぶ（2017年3月破産）のように、旅行業者の倒産は大きな消費者被害につながりかねないため、業界として弁済制度など一般消費者向け救済策の拡充が求められる。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 東京支社 情報部 つづる 綴木 猛
TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-3148

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。